

# スズランの日



5月1日はスズランの日です。「スズランの日」はフランス発祥のイベントで、フラワーデザイン等でフランスに馴染みの深い方は身近に感じられるかもしれません。

フランスでは5月1日に愛する人やお世話になっている人にスズランを贈る習慣があり、もらった人には幸運が訪れると言われます。フランス語でスズランを「ミュゲ (muguet)」ということから、「ミュゲの日」とも言われます。

## 「スズランの日」の歴史

スズランには日本原産種(鈴蘭、君影草)とヨーロッパ原産種(ドイツスズラン)があります。鈴の形をした花はヨーロッパの人々の間では春のシンボルで、幸せを呼ぶものと考えられていました。また、「聖母マリアの涙」と喻えられることもあり、ヨーロッパでは大切にされ、ブライダルに花嫁に贈る花としても良く使われます。

16世紀ヨーロッパでスズランの栽培が始まって間もなく、スズランを贈る風習が生まれました。当時、5月1日は愛の日とされており、葉と花で作った冠を被って男女が花をプレゼントし合っていたようです。

1561年5月1日、幸福をもたらす花とされるスズランの花束をプレゼントされたシャルル9世は大変喜びました。そのためシャルル9世は、宮廷のご婦人たちにも幸せを分けてあげようと毎年スズランを贈ることにしました。また、スズランは恋人たちの出会いや幸せの象徴でもあり、縁起が良いものとされていました。鈴蘭舞踏会と呼ばれるパーティが開催されることもあり、若い女性たちは白いドレスを身にまとい、男性たちはボタン穴にスズランを付けたりしていたそうです。

一般の人々にスズランを贈る風習が定着したのは19世紀末頃から。シャルル9世がスズランをもらって喜んだ年からちょうど15年後の1976年5月1日だと言われています。20世紀になると、パリ近郊の人々がスズランを探しに森に行き、野生のスズランを採取しました。現在では5月1日が近づくと、街角の至る所でスズランの小さな花束が売られます。フランスでは当日になると、誰でもスズランを売って良いというルールがあります。但し、スズランは森で摘んでも根が付いていないものと限られており、また花店から100メートル以上離れた場所で売らなければならないなどの規制があるそうです。子供たちがお小遣い稼ぎに販売していることもあるようです。

スズランは小さな花束で300円程で売られ、花店では栽培されたスズランも売られますが、パリなどのような大都会では森のスズランは香りが高いこともあり希少価値が高くなります。ちなみに、フランス国内の年間6,000万本のスズラン生産量のうち、85%は西部の温暖な地域で栽培されています。

## 谷間のユリ

スズランはユリ科スズラン属の多年草です。鈴のように咲くためにこの名前がつけました。花言葉は「幸福が訪れる」「純潔」「純粋」「繊細」「幸福の再来」「意識しない美しさ」など。ちなみに、スズラン属という意味のConvallariaは、ラテン語の「convallis(谷) + leirion(ユリ)」が語源で「谷間のユリ」という意味です。同様に英名は“Lily of the Valley”となります。

## スズランの伝説

スズランにはこのような伝説もあります。森の守護神セント・レオナードが修行の為に出かけた際、彼は森の中で道に迷ってしまい、そこで一匹の大蛇に襲われてしまいます。その戦いは三日間にも及び瀕死の重傷を負いながらセント・レオナードは大蛇を剣でうち倒しました。

しかし彼の負った傷も大きく、血だらけになった彼は草の上に倒れ込んでしまいます。そのとき、血で染まった大地から目にも鮮やかな白いスズランの花が一斉に咲き始め、彼の身体の傷と、精神的な傷を癒し始めました。これは大蛇を退治してくれたセント・レオナードのために森の精霊がスズランを咲かせ、彼の傷を癒したそうです。このような伝説から、スズランの花は「癒し」、「平静」、「幸福」を意味するようになったそうです。

## 香り

日本のお花屋さんで見かけるスズランの多くはドイツ原産のドイツスズランで、日本原産のスズランより花が大きく、香りが強いのが特徴です。バラ、ジャスミンと並び、三大フローラルノートと呼ばれ、そのややグリーンを帯びた透明感のある香り、キリリと爽やかな香りから、いくつもスズランの香水が出ているほどです。

スズランの香りを再現した香水は、クリスチャン・ディオールの「ディオリッシモ」などが代表的です。スズランをこよなく愛したディオールが、生涯最後にプロデュースした名香と言われています。

また、スズランの香りは「聖なる香り」と言われ、好きな人にふりかけると自分に振り向いてくれるという言い伝えもあります。

他の花の香りとも相性が抜群で、とりわけバラやスイートピー、フリージアと良く合います。

